

前略 ■家庭学習を教式は勧めます。「宿題」として出すのではなく、子ども達が自ら勉強しなければならない気持ちにさせるのです。本当の意味での自学自習です。それが「読んでみたか」です。余韻と共に家庭での自学自習を促す手だての一つです。

●「一よむ」の前に必ず子ども達に聞きます。「読んできたか」とは問いません。「きたか」と「みたか」、文字一つの違いで、予習しなかった子どもへの対応が異なります。「きたか」だと「何故だ。だめじゃないか」が続きます。「みたか」だと「残念だったね。でも大丈夫」と続きます。●この「みたか」は学級担任だと教材に入るちょっと前から出すことができます。今日の反省や明日の予定、連絡帳の記入等のために終わりの会・帰りの会をしている方は多いと思います。その時間に「読んでみたか」をします。●例えば「大造じいさんとガン」だと…1日目：運動会が終わったら「大造じいさんとガン」の勉強をします。読んで

みましたか？…2～3日後：読んでみた？すごいガン。格好良いねえ。…2～3日後：読んでみた？大造じいさんというのもすごい人だねえ。…という感じです。印象の強いところをちょっとだけ扱います。小出しにします。ガンの名前や計略等、詳細は授業でのお楽しみ……。印象の強いところを、読んでみた子どもとちょっとだけ共有する。それがミソです。草々

オオマムシグサの実



これがオオマムシグサの実です。9月13日撮影。